

# 『これからの教育』のこと

## 宮教大見上新学長に聞く



### 見上一幸 先生

理学博士。神奈川県出身。東北大学大学院理学研究科修了。主な研究はゾウムシを研究材料にした発生遺伝学。環境指標生物などに関する環境教育の仕事もしている。2012年4月1日より国立大学法人宮城教育大学学長。

### ▶ 地域と世界

教育大学はどうしても視野が深く狭くなってしまうため、グローバルな、国際的な視野を持った学生を育てていきたいとも考えています。在学中に短期でもいいので留学する、または留学生とコミュニケーションを図る。世界に自ら働きかけられるような、発信できるようなそんな先生になれる学生を育てたいですね。教育大学の枠だけにとらわれず、他大学、他学部の学生さんたちとも大いに触れ合ってほしいと思います。

もうひとつ大事なことは、学生のうちに地域にかかわることです。今は地域の時代。先ほどお話ししたグローバルにも関連してきますが、いろいろな特徴を持ち、いろいろな形で世界へ発信している地域があります。学生たちにはそういった地域に入って、さまざまな能力を身につけてほしいですね。しかし、根本には子どもたちにどう教えるか、先生としての授業をきちんとできるかが大前提です。ですから基礎的な学力もしっかり身につけてもらわなければなりません。

### ▶ 学生を前面に

「先生」という仕事は大変になってきていると感じます。社会が多様化するなか、さまざまな職業、さまざまな考え方や付き合っていかなければなりません。これからは学生たちをどんどん前面に押し出していきたいと考えています。宮城教育大学では以前からそういった取り組みを行ってききましたが、さらに前へ。学生のうちからさまざまな体験をしてほしいのです。

私は今の男子学生はおとなしいと感じています。本校は女性が6割を占めていますので、数的にも女性のほうが発言力が強いという理由もあるのかもしれませんが(笑)。しかし、男子学生がおとなしいというのは決して悪い意味ではありません。やらなければならないこと、言われたことをきちんとやる。彼らはとても真面目なんです。

私は、男子学生、もちろん女子学生にもキャンパス内外で活発に動いてもらいたい。4年という時間を使って、自分の好きなこと、やりたいことにダイナミックに取り組んでほしいと思います。

### ▶ 読者のみなさんへ

今は「追いつけ追い越せ」というような時代ではなくなりました。子どもたちが豊かな人生を送れるよう、自分がやりたいと思ったことをしっかり追求できるよう、決してコセコセしないで、本物に出会い、触れるように、そして彼らの夢を叶えられるよう、すばらしい環境を作っていければいいと思います。

読者のお母さん方、どうかお子さんの言うことをよく聞いてあげてください。私にも社会人の子どもが二人おります。自分の子どもの教育となると、そうなかなかうまくはいかないですけどね(笑)。



中高一貫教育、学区制撤廃、公立高校入試制度改革、総合こども園創設など、年々変動する「教育」。

震災以降はさらに変化し続けています。

教育の未来と子どもたちの未来のために、東北唯一の教員養成校として

豊かな実践力を備えた教員の育成にあたる宮城教育大学。

4月1日から新学長に就任した見上一幸先生に、震災後のこれからの教育について、

未来の教育現場のためにどのような学生を育てていきたいか、

今後の構想等をうかがいました。

### ▶ 第一に『教育復興』

東日本大震災の発生から1年が過ぎました。教育大学として私たちがやるべきことは、まずは『教育復興』です。震災前は「宮城県で99%大きな地震がくるよ」と言われておりましたから、私たちの教育も防災あるいは減災が中心でしたが、いざ地震が起こってしまった今、復興のための新しい教育を考えていかなければなりません。

それはたとえば子どもたちの心のケアであったり、被災学校の支援など、これからはさまざまな『復興プロセス』が大事になってくだろうと私は考えています。

### ▶ 災害復興学の構築

本校では被災後『教育復興支援センター』を設けて、学生たちが教育支援ボランティアを行い、また全国の教育大学に対しても支援要請を続けてきましたが、先ごろ『災害復興学』の構築をめざす新しい取り組



みも始めました。これは宮城教育大学と山形大学さん、福島大学さんの南東北3大学が共同で行う研究です。3大学、3地域ともそれぞれ被災の状況や立場が異なります。

本校は被災地であると同時に教育大学であり、いち早く宮城の教育現場を復興させたいという願いがあります。

福島は原発の影響で子どもたちが県外に出ていってしまっ。山形は隣県の子どもたちを多数受け入れている。三者三様ですが、みんなで連携して地域のために役立とうと。

先日山形でシンポジウムが行われました。各大学の意見交換があり、今年度も話し合いを進めていきます。

また、それぞれの大学で活用できる災害復興学の共通テキストも力を合わせて作成しようとして動いています。たとえば夏休みの講座として、またはインターネットで、お互いの授業を聴講できるようにしようと検討中です。

### ▶ 子どもたちのために

子どもたちには、「あの震災があったから、あの日を境目に、自分はこんなに辛い人生になってしまった、本当はあの職業に就きたかったけど、諦めなければならなかった」とか、できるだけそのようなことがないようにしたい、それを私たちが少しでも軽くしたい。

だから優秀な先生を養成し、教育現場に送り出す。これが結果的には復興につながると思いますね。

震災により、子どもたちが夢をなくしたり、なりたいたいの、やりたいことを諦めるということがないように、地域の子どもたちのために少しでもお手伝いできればと考えています。

### ▶ 人間力とは

新学長としての構想はいくつかあります。

まずはじめに、国立大学は6年ごとに中期目標のようなものを作って、それに従い努力をしなければなりません。本校はその目標に「人間力」を掲げてきました。

人間力とは何なのか。コミュニケーション能力、思いやり、クリティカルシンキング、つまり何ごととも鶏呑みにせず、自分で理解して消化し、自分で判断するなど、このようなさまざまな資質を持つ人間力を備えた教員を育成していきたいですね。そして、子どもたちに寄り添い、教職に対する情熱と誇りを持って学び続けようとする人になってほしいと思います。